

平成19年度第5回三重県文化審議会

日時：平成20年1月29日（火）13：00～16：00

場所：JA三重 健保会館 3階 大会議室

（司会）

只今から平成19年度第5回三重県文化審議会を開催させていただきます。

本日は、河俣委員、桜井委員、中川委員、浜辺委員の4名の方につきましては所用によりご欠席ということでご連絡をいただいております。

従いまして、本日の審議会は、現時点で委員総数15名のうち11名の過半数のご出席をいただいておりますので、「三重県文化審議会条例」第6条第2項により、本会議が成立していることをご報告いたします。

なお、委員、委員につきましては、所用により途中で退席されると伺っております。では、早速議事に入りたいと思いますが、その前にまず配付資料の確認をさせていただきます。

- 配付資料の説明 -

それでは、ここからの進行は武村会長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

（武村会長）

それでは、早速事項書に従って進めますので、よろしくお願いたします。

今日は、知事さんの諮問に関する審議としては最後でございまして、答申をまとめなければいけないわけですので、ご協力をよろしくお願いたします。

事項書の2ですが、「県民等からの意見概要について」ということございまして、それについてご報告をいただきます。県民の皆様方からいろいろご意見をいただいているようでございます。よろしく申し上げます。

（事務局）

- 「県民等からの意見概要について」説明 -

（武村会長）

以上のように、たくさんの意見をいただきましたが、何かご意見、ご質問、ございますでしょうか。事務局もだいぶ細かく考えて、答申の案の中に入れていますが、よろしいでしょうか。

それでは、急ぐようですが、今日は結論が要りますので、早速次の議題に入らせていただきます。

メインは二つですが、一つは「三重の文化振興方針(仮称)」(答申案)についてということで、こちらの審議に入りたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- 「三重の文化振興方針(仮称)」の答申案及び今後の進め方説明 -

(武村会長)

それでは審議に入ります。

今のご説明のうち、資料1-2のほうは今後の問題でもあるので、もしご質問があれば、議事の最後のほうに回すといたしまして、早速入りたいと思います。後半ではこの「新博物館のあり方について」のご審議がありますので、できれば2時半ぐらいまでに終わらせたいと思っております。よろしくお願いたします。

だいたい全体につきましては、もうすでに詰めに入っておられると思いますので、あまり分けずにとも思うんですが、あまり漠然としてもいけませんので、一応、章ぐらいに区切ってご審議いただきたいと思います。

まず、「はじめに」と第1章をまとめてご意見とご質問をいただきたいと思います。特にこの「はじめに」というのは、ギリギリまで事務局が努力されまして昨夜作られたものなので、多分今日初めて皆さんもご覧になり、僕もさっきから読んでいるところですが、ちょっと読んでいただいて、ご意見をいただければと思います。それと第1章ですが、だいたい5ページまでですね。この間で何かございましたらよろしくお願いたします。

「はじめに」というのは、僕も分かりませんが、大きく言って二つの種類があって、憲法前文のように、理念を掲げて非常にスケールを大きく書く場合と、最近では文系の学術論文でも出てきたんですが、論文の前に400字ぐらいで目的とその章立て等を簡単に概説するものが増えてきております。それを「はじめに」とすることもありまして、どちらかと言うとこの案はあとの概説するほうにだいたい適しているような感じがあります。それはそれでいいかと思います。その代わり、あまり理念的にスケールを大きく高々というわけにはいかないんですが、そのあたり、もしご意見があればと思います。

中身につきましては、その本文について手際よくまとめておられますのでいいかと思いますが、最後でもありますので、細かい点を含めてご質疑をお願いたします。

ちょっと質問しますが、2ページの真ん中あたりで行が変わり、「新博物館整備の必要性」というのは、これ以下は本文ですね。ですから、ここは行を空けないと、一番上の「(新博物館のあり方について)」の文が最後まで行くようなイメージになるので、ここは1行空けないとおかしいかと。そうすると、各括弧のところは1行空けたほうがいいかなと。1ページの真ん中あたりの「(「三重の文化振興方針(仮称)」の特徴)」の前も1行空けないといけなかなという気がします。そ

うですね。

(事務局)

はい、そうさせていただきます。

(武村会長)

はい、どうぞ。

( 委員)

私、新博物館のあり方部会にはほとんど参加していたんですが、文化振興拠点部会にはあまり出席していなくて、今頃何でこんなことを言っているのかというご指摘をいただくかも知れないんですが、例えば私が読んだ時に、この5ページの基本目標の2点がこの2点でいいのかなとちょっと気になりました。もし問題なければそれで結構なんですが、事務局の説明だと、この基本目標を第3章からこっちに移してきたということですが、例えば左側の4ページ目に意義・目的がありまして、意義・目的に「人間力の向上」と「地域力の向上」と「創造力の向上」とありまして、それはぴったり基本目標と一致しなくてもいいんですが、でも、この「人間力の向上」で書かれていることが基本目標の1番目と重なるんですよね。で、基本目標の2番目がこの意義・目的の3番目と重なりますが、意義・目的の2番目の、文化振興によって地域づくりとか、あるいは人と人がつながって絆を深めるとかいうことは基本目標に強調しておかなくてもいいのかなと。文化というのはそういう人と人の関係を作り、社会や地域を作るという大事な点があるような気がして、そこがポンと一つだけ抜けるのがちょっと気になったんですが。

(武村会長)

そのへん、いかがでしょうか。

(事務局)

今ご指摘いただきましたように、大きく基本目標の1番目は「人」に着目して書いておりまして、2番目はどちらかと言うと「地域」のことを書いておりまして、結果的には1番は人間力そのもの、2番は地域力と、さらには個性を磨いて世界に向けて発信していくということで、ちょっと創造力の部分も入ってしまったのかなと思うんですが。最初の意図としましては、まず人を元気にしていかないといけない。そういう人が元気になることによって、地域が元気になったり、地域の絆が作られたりというようなことをちょっと意識して、この1、2を作ったつもりだったんですけど、もしその「創造力」と「地域力」を前半分けたほうが分かりやすいようであれば、少し変えなければいけないなと思うんですが。

(武村会長)

部会としてはどうでしょうか。

これはこの前事務局と話をしている、ちょっと見てまゝまゝと思って、多少問題なのは、その基本目標の2番目は言葉だけから言えば、「活力あふれ、魅力と個性を磨き」で、この個性を磨く、あるいは魅力を磨くのは三重だと、こういう文ですよ。文から言えば個人ではないわけで、活力あふれ、魅力と個性を磨く三重と、こういうことになっていくので、そこがちょっと曖昧かなということは事務局には言ったんですが、まゝ基本目標だからいいかなと思って、あんまり強くも言わなかったんです。

今の 委員さんのご指摘もあって、多少基本目標が曖昧なところがありますが、特に直したほうが良ければ、また急遽ご相談して、見直させていただきますが、いかがでしょうか。何か他に積極的なご意見はございますでしょうか。

今の 委員さんのご指摘もあり、ちょっと曖昧なところがあるからもうちょっと考えますかね。答申の日の2月4日まで日がありますので。

はい、どうぞ、 委員さん。

( 委員 )

であれば、基本目標の2番目の頭に例えば、「個々が連携し」という言葉を一つ入れてみるとそれなりにつながるんじゃないかと。結構具体的な話ですけど、「個々が連携し、活力あふれ、魅力と個性を磨き」とすると、さっきの連携だとかいうところにつながってくるかなと。

( 武村会長 )

委員さんからそういう提案がありました。 のところ、「個々が連携し」というのを入れたらどうかということ、それをちょっと念頭に置いて考えてみていただければ。

はい、では、 委員さん。

( 委員 )

これは前提に人と人のつながりがあるという話し合いは勿論ありましたので、そういうところを前提にしていると思うんですが、この文章から見ると、ちょっと「個人かな？」という感じもしますので、今おっしゃっていただいたようにちょっと何か言葉を入れると、「個人が人とつながることで」という感じが出てくるかなと思います。

( 武村会長 )

部会長からもそういうご意見がありましたので、ちょっとまたご相談で急遽変えて、皆さん方のご意見を伺います。

僕からも一つだけ、前に「はじめに」のところでちょっと事務局と相談したと言ったんですが、「はじめに」で1ページの下から9行目、「本審議会では」ではじまる場所がありますね。微妙なところで、これでもいいとは思いますが、僕が事務局に言ったのは、文化振興の拠点と施設

との関係では、施設が先あって、それを拠点とするんじゃなくて、文化振興の拠点はどこあるべきかという審議があった中で、具体的にこういう施設があるからそれを充てようという、むしろその逆の流れですね。だからそこは微妙なところなので、これは確かに施設と結果的には同じものではありませんけど、この幅広い県民が活用・活動する場となっている施設を拠点とするんじゃなくて、我々が考える拠点をこの施設で充てるという表現でないとまずい。これがもう1ヶ所あって、これは第4章になりますのでまたその時に言いますが、ちょっと変えたほうがいいかなという気がします。

他に何かいかがでしょうか。

またいつもですが、前後しても結構ですので、とりあえずどんどん進むことにして、それでは第2章はいかがでしょうか。第2章は6ページから11ページ、「三重の文化の特徴」、このあたりはいかがでしょうか。

最初にちょっと事務局からも問題提起がありました、11ページの最後のところで「(その中でも博物館の充実は最も急がれる課題でしょう。)」というのは、こういうのをちょっと付け加えたらどうかと言ったのは僕でして、要するに三重県の中の課題の一つに博物館が非常に貧弱だということを入れたほうがいいんじゃないかと。但し、どこに入れるかということ、結構これは難しいので、こういう括弧書きになってしまったんですが。ここでもいいが、どこかで指摘したほうがいいかなという気がしたんですが、どうでしょうか。

はい、 委員。

( 委員 )

私もこういう文言をどこかに入れて欲しいということをお願いしたんですが、ここでこの1行だけで入れると、ちょっと唐突な感じがして、そういう意味ではちょっと先になってしまうんですが、23ページの4行目にあるように、ここにこういう形で入れていただいたら、それはそれでいいのかなと。ここで1行だけ入れるとなるともっと説明しないと、ちょっと唐突かなと思います。

( 武村会長 )

でも、僕も入れる場所が分からないんですよ。

( 委員 )

23ページの、県が設置する拠点の充実強化のところに入れていただいているので、そこでいいかなという感じがしました。

( 武村会長 )

それでいいですかね。僕は9ページの上のほうの「社会や地域の現状を背景としたさまざま

まな課題」の一つに挙げないと具合が悪いかなという気がしたんですが、なくてもいいですか。

( 委員 )

課題に入れるなら、この「 」(黒四角)の一つにしないと。

( 武村会長 )

いかがですか、 委員さんのほうから、後ろにあるからいいということで、それでよろしければ、僕も別にこだわらないので。「 」の一つとして挙げると、文章からまた考えないといけませんからね。

( 委員 )

課題に加えるとちょっと具体的すぎるかもしれない。

( 武村会長 )

では、これはなくてもいいですか。「三重の文化をめぐる現状と課題」に入れなくても。皆さんが良ければ削りますけど。

( 事務局 )

先ほどの9ページ以降の「社会や地域の現状を背景としたさまざまな課題」の中にもし入れるなら、例えば「地域資産の滅失、流出」とかいうところがありますので、その「求められること」の中に、博物館がないので、そういうものが必要じゃないかということを入れることは可能かとは思いますが。ちょっと「 」にすると大きい。

( 委員 )

それは自然環境の危機も、子どもたちの実体験の不足も、あちこちに博物館は係わって博物館が必要だということを別の箇所でも言っていますので、どこかに埋めるというのはちょっとまずいかなと思います。

( 武村会長 )

入れようがないんです。確かに 先生が言われるように、内容的には博物館が必要な理由が全部入ってはいますから、ここになくてもいいといえばいいので、もし違和感があるということであれば、ここの括弧は取ってしまって、 先生が言われるように最後の部分で書いてあるからいいと。

よろしければ取ります。よろしいでしょうかね。では、これは取ります。

他に第2章で何かご指摘いただくことはありますか。

( 委員 )

非常に細かい言い回しの面なんですけど、10ページの「子どもたちの実体験の不足や活字離れ」で、特にこの「(求められること)」なんですけど、この内容からすると、こういう生涯学習、文化

施設、NPO等の団体がいろんな体験の機会を提供するということになっていますよね。で、それは大事なんですけど、本来その前に学校や家庭や地域そのもので実体験やそういうものを大事にする生活をしてくれないと困るというのがありますので、学校や地域社会でそういうものを促進すると同時に、こういう団体等が提供して、さらにそれをサポートすることが求められているんだという言い回しにしたほうがいいと思います。

(武村会長)

ごもっともなことなので、それはちょっと変えて考えることといたします。

他に何か。　　さん。

(　　委員)

少し細かいことになるんですが、10ページ目の「家庭や地域で育まれる生活文化の発展と継承の危機」の部分の「(求められること)」で、1行目に「図書や行事などにより広め」とあるんですが、言いたいことは分かるようで分からない。結局、その行事と言ってもいろんな行事があると思うし、図書というのは文献を指すのか、何を指すのか、私はちょっと1回読んで分かりにくかったので、もっと具体的にどういう活動で広めていくのかというのを書いたほうが分かりやすいのではないかと思います。

(武村会長)

いかがでしょうか。例えば何かありますか。

(　　委員)

例えばモクモクファームさんなど、そういう施設に小学生を招いて、一緒に料理教室をするなど、そういう何か具体的なイベントであったりとか。結局「図書や行事」と言っても何を指すのか、どういうことを考えているのか、私にはちょっとピンと来なかったので、何か具体的な記述があると、皆さん読んでいる人も想像しやすいと言うか、理解しやすいんじゃないかなというのがありました。

(武村会長)

よろしいでしょうかね。

「図書や行事」というのは、すぐ2、3行上にある年中行事あるいは伝統行事のことを指すだけじゃないわけですか。この「行事」というのは。

(事務局)

そうですね。いろんな機会とか媒体を通じて広めていくべきだということで、特に年中行事とかに限定して考えているわけではございません。

(武村会長)

今、さんが言われた、いわゆるイベントとかそういうものも含んでいますか。

(事務局)

はい。

(武村会長)

このあたりは確かに分かりやすくしたほうがいいかも分かりませんね。

では、また考えるとして、今度は第3章はいかがでしょうか。第3章は12ページから14ページまで、基本方向、これは五つの標語でまとめてあります。方向が五つ、それから14ページは視点が四つ、こういうことですが。

これはよろしいですか。

では、すみません。急ぐようですが、第4章に入ります。第4章は27ページまでです。そこまでいかがでしょうか。

委員さんが言われた、あとのほうですが、23ページのところです。

僕があまり言っても何なんです、さっき言ったことの続きは15ページの上のほうにある「」の部分、「明確な定義はありませんが」云々という、これも施設を拠点とするという言い方になっているでしょう。姿勢としては逆でないとおかしいかなと。

(委員)

若干ここまでまとまっているところへ、また内容の土台的な話にもなるんですが、非常に格調高いと言うか、テンションが高いと言うか、文化が全部哲学だなという感じがするんですね。特に23ページのところを読むと、博物館は知的拠点と言うか、そういう言い方をして、それはそれでいいのかなと思っていますが、美術館についてここに書いてあるのは非常に格調高くて、例えば美術館へ行って何となくゆとりを感じるというか、ゆったりしたいというか、そういう雰囲気が全体にないんですね。美術館のところを読むと、特にそういう感じがして、美術館へ何か文化的知識をたくさん求めに行くと言うよりも、あそこへ行って、ゆったりと「ああ、いいなあ」という、そういう雰囲気が文化の中にやっぱりあると思うんです。なかなかそういうのは文章に表しにくいんですが、美術館もここまで固く書かれちゃうと、ちょっとという感じがして、それをもう少しところどころ柔らかくできないかなという感じがします。ないものねだりかも知れませんが。

(武村会長)

このあたりは美術館から意見が何かあったんですか。そういうわけではないですか。



(事務局)

特に「こう書いて欲しい」といわれたものではなくて、こちらが文献等から使ったものです。

( 委員)

これ、後ろに足したらどうなんですか。「心でゆとりを得る」みたいなことを。もしそんなのが要るんだったら、一番最後の行で「芸術と感性を育むことや、訪れる人々の心のゆとりを得る拠点としての役割が期待されます」ぐらいのことをちょっと入れておけば。

(武村会長)

先生としては、他の図書館や博物館もそうだと、こういうことなんですよ。

( 委員)

特に美術館が。

( 委員)

美術館はちょっとそうですよね。図書館で心のゆとりというわけでもないだろうと思いますけど、美術館は特に絵を見ながらぼーっとするとかいうのは分かるような気がする。

( 委員)

本が厚いとそういうこともあるかも分からない。

( 委員)

いや、美術館だけだったら、そうやって入れてしまえばそれで済むことですし、確かにおっしゃるとおりです。

(武村会長)

まさにおっしゃるとおりの要素がないといけないんですが、入れる場所は直接入れていいか、どこがいいか。今いただいたご意見は貴重なので、それを念頭に置いて、どこか考えると、そうですね、僕なんかは図書館というのはやっぱりのんびりぶらりというのが一番いいと思うんですけどね。ここは確かにそういう要素も欲しいし、ちょっと念頭に置いて考えていただくということで。

( 委員)

図書館は今、高齢者なんかはまさしく時間潰しに行っている。県立図書館がそういうことでいいのかということになると、問題だと思うんですが、市町村の公立図書館などはやっぱり時間消費のためにのんびり、ゆったりと行っておられる方もみえると。その機能は非常に重要だと思いますよ。県立図書館がそれでいいかとなると、ちょっと考えるところがありますが。

(武村会長)

拠点という意味合いで述べてあるので、それぞれの持っている機能を全部挙げているわけでも

ないんだろうと思いますけどね。ちょっと貴重なご意見ですので、それを念頭に置いて工夫をさせていただきます。

( 委員 )

先ほど先生が拠点と施設の部分をもう少し整理したほうがいいだろうとおっしゃった部分は、さっと今直してしまえばいいと思うんです。事務局に任せて後でと言うよりは、先生からのご意見があるでしょうから、そんなに難しい文章じゃないので逆にしてしまえばいいだけのことで、あとは「てにをは」を合わせれば。今回やったほうが皆さんすっきりするんじゃないかと。1ページのところと15ページのところと。

( 武村会長 )

1ページと15ページ。

( 委員 )

ちょっと、併せてと言いましょか、やっぱりこの15ページの「 」の「文化振興拠点について」という定義を書いたところがありますよね。ここより後ろのほうを読むと大変いいと思うんですよね。拠点をこの身近なアクセスポイントと、もうちょっと大きな拠点とに分けているのが今回非常に重要な指摘だと思うんですが、ここの最初の文化振興拠点のこの定義から来ると、身近なアクセスポイントがかなり重要なんだということはまったく見えてこないですよ。そこはやっぱり、身近なアクセスポイントが文化振興拠点にとっての拠点としてかなり重要なんだ、ということが最初からうまく通じるような書き方がいいと思うんですよね。

( 武村会長 )

だから、拠点という思想がまずあって、その中で現実問題として、例えば中心的な拠点とかいろいろあるんですね。そのうちの一つは博物館をそれに充てるとか、そういう流れでいくと、そのアクセスポイントとしての役割があるんですね。

今、先生はそう言われたけど、ちょっとすぐには難しそうなので、ちょっと後で考えるということで。

( 委員 )

分かりました。

( 武村会長 )

あと、27ページまででいかがでしょうか。

だいたいざっと見ていただいて、全体的なことは後にして、細かい点をご指摘いただくとして、第5章、28ページから31ページまで、これはいかがでしょうか。

これはご覧になってお気づきかと思いますが、前からいろいろとご指摘がありましたが、審議

会として主張していくような表現、あるいは県に要望していくような表現にだいたい統一してきました。まだ落ちているところがあるかも知れませんが、よろしくお願いします。

( 委員 )

25 ページの「連携の具体例」というところで、「学校・教育委員会」を挙げていただいておりますが、このあたり、学校の教育内容と関連づけた行事や展示、その他の企画を博物館で積極的にしていただくのはとってもいいことだと思うんですが、どんな企画をしているのかという情報公開が大事ですね。学校等がそのことを知らなければ、やはりそこに参加することができないわけですから、ここで少し「積極的に情報公開し」という形で入れていただき、博物館は「いらっしやい」だけじゃなくて、積極的に打って出るという形をここで示したほうが、より学校・教育委員会と交流できるのではないかと思います。

( 武村会長 )

その点は、例えば下に書いてある市町とか大学等も一緒なので、その上の「ウ」の文中でその旨を書いたほうがいいでしょうかね。情報提供（情報公開）は全体に係わることなので。

( 委員 )

ちょっと今、ここで具体的に書いてあることを見て思ったんですが、拠点というのは一方から一方に打って出るということではなくて、両方がアクセスできるということが拠点の一面だと思うので、書くなら一言で言えば「連携」でいいんだと思うんですが、学校側からも拠点にアクセスするという態度を何か表明しないと、一方通行的表現ではまずいんじゃないかと思います。

( 武村会長 )

原案としては、そのつもりで「連携」と書いたんだと思います。それも明確に書いたほうがいいというご指摘でもありますので、その「ウ」の文章を今のご意見も踏まえて考えていただければと思います。よろしいですか。

最初にこの審議会の諮問事項としては、今日で最後ということもございますので、今日いろいろとこの後ご指摘をいただくと思うんですが、部会長あるいは副会長とか事務局、我々にお任せいただいてよろしいですか。また修正したものはメール等で送らせていただきますが。

それでは、全体としていかがでしょうか。何かあればお願いいたします。

( 委員 )

中身は特に問題はないんですが、全体として随分読みやすくなったなとは思いますが、「はじめに」がやたら固い文章で、「はじめに」から入ると、これで多分読む人みんなページが進まなくなると思いますので、「はじめに」はよっぽど簡単にしないとイケないと思います。中身はいいんです。相変わらず表現が、言われぬ限りこういう固い文章を書くのかと、私はちょっと、今日の

「はじめに」を見てあっけにとられたんです。まだこんなを書いているのかと。もう少し柔らかく、表現一つ取っても、こんな表現をしなくてもいいだろうという表現がいっぱい中にありましたので、もうちょっと何とか考えて欲しい。あまり知恵を使った文章には見えないです。

(武村会長)

いかがでしょうか。その「はじめに」、最初に申し上げたように、例えば、昔はそうでもなかったんですが、最近は文系の論文などにも最初にこういうまとめを書くと。それは確かに読むのに見当が付くのでいいんですが、一方では、そこだけ読めば分ってしまうので他を読まなくなるということもありますので、僕なんかは、むしろ理念的なことをちょっと書いてあるのが好きですね。ただ、これまた好きずきがあって。

( 委員)

中身はこれでもう、そのまま、私は全然問題はないと思います。熟語の使い方だとか、つまり、中はこれはもう先生も絡めてしっかり書かれたと思いますが、表に出していく立場としては、こういう書き方じゃなくて、もう少し簡単に表現をしたほうがいいだろうというだけのことです。中身に関しては、このやり方でまったく問題はないですし、書いてあることは問題ない。但し、それぞれの小さな表現をもう少し柔らかくできないのかと。これ、見た途端に次のページをめくれなくなりますよ。やっぱりここから次のページをめくってもらうために「はじめに」があるので、「はじめに」で止めてしまっただけは何の意味もないので、このままだったら多分あとの文章、今までずっと議論してきた文章に誰も行かないですから。それだけのことなんです。中身はまったく私は反対するものではないです。反対だったら、最初の時に意見を出しますから。

(武村会長)

他に。どうぞ。

( 委員)

2点ありまして、全体的なことなんです、これもなかなか言いにくいんですが、例えばこの12、13ページの「基本方向」に何となくその特徴が表れているような気がするんですが、一つはこの「三重の文化振興方針(仮称)」は、この拠点というものに注目しながら、いわゆる、いきいき生活する県民一人ひとりの立場に立った文化振興ということが一番大事なことにしようとしている。それは非常によく分かる。

なんです、もう一方で、特にオリジナルな文化を創造するという、その言葉はかなり重要で、確かにどこかでそこは突出してしまう部分もあるのかも知れないんですが、それが文化振興のきっかけになるということもありますよね。そうした時に、この「創造する」ということをもうちょっとどこかで強調しておかなくてもいいのかなというのがありまして、構成上別に問題が

あるのではなくて、どこかに強調すべきと思っているんです。

例えば13ページの「方向4」で「創造する、生かす」と書いてありますが、決してこの内容は創造する内容ではない。「生かす」が強い内容なんですよね。この「生活やまちづくりに生かす」ということのほうが強調されていますが、何か新しい文化を本当に創り出していくという面が、やっぱりどこかにもっと入っていたほうがいいんじゃないかと思うんです。どこかに入らないでしょうか。この「創造」という言葉がいくつか散見されるんですが、さっき言ったような意味での「創造」というのがあまり強調されていない、そこはどう考えたらいいのかというのがあります。

それから、もう一つは、この「方向3」の「つながる」という面なんです。これも本当に一人ひとりの人々がつながるといことがあまり強調されてないように思うんです。ここでは他地域や世界とつながるといことになっていますが、11ページの下の方に4点「求められること」がまとめてありますよね。その1番目が「誰もが文化にふれ親しみ、互いに交流できること」とい、この後半の「互いに交流できること」といのが、ちょっとあまり生かされていない。ですから、この「方向3」のところは、その「人とつながる」といことをもうちょっとだけ強調したほうがいいのかも知れない。そうすると違うのかなと。ちょっと前の議論にこの点は戻ってしまったような気がするんですが。

ちょっとこの2点が気になっていたものですから。

( 委員 )

私も、特に前半の話なんです。方向1の「広げる、高める」は、広げると高めるを一緒にしてしまっているあたり、これは実は去年の『三重の文化芸術振興方策』にもこの表現が出てくるので、その検討の時から私はちょっと同じことを発言していたんですが、広げると高めるを一緒にしてしまうものですから、どうしても行政的に、広げると高めるといことでは広げるに眼がいつてしまうということもある。しかし、高めるという雰囲気、やっぱり広げると同時にやっぱりトップ、うんと高くなって世界に向けて発信していくような県民がいてくれることを期待し、それを文化振興としてはぜひ応援したい、して欲しい。そうなるとやっぱり全体として少し「高める」ほうのストーリーづくりがもうひとつで、これは実際、施策としてどうするのかというよなことは非常に難しいんだと思いますが、もうちょっとそのあたりにはふれて欲しいなという感じを私もしております。

( 委員 )

中身については申し上げることもないですし、「はじめに」については さんがおっしゃったように、もう少し分かりやすくやって欲しいと思うんですが、全体的な感じは、この中身につい

ではどうこういうことではないんですが、一つは、この答申というのは、主役は誰なんだということなんですね。もうちょっと、何と言いますか、すべて書いてあることは確かなんですが、これで三重県の人たちは元気が出て、この中で活動ができるのかしらと、何となくそのへんが少し不安になる。もうちょっとそういう主役、本来的にこれは場所であり、ものであり、こういう拠点なんだけど、そこでの主役は誰なんだろうなと。そういう表現というのがあってよかったのかなというような気がいたします。

だから、そのへんで何となく確かに書いてあることも言っていることも間違いではないんですが、何となくヴィヴィッドなもの、生の生命感が乏しいような気がいたします。これはないものねだりになるのかも知れませんが、ちょっとそんな気がいたします。

( 武村会長 )

ありがとうございます。「県民主役」というのは最初から言っはいるんですが、そのへんをあまり文章の中ではっきりしていないかも分かりませんね。

( 委員 )

これ、一つは博物館というのが少し頭にあって書いているので、過去のものを大事にして、それをステップに次に行くというような雰囲気がある文章の中にある。さっき 先生がおっしゃられたような創造の部分というのは、私が前からちょっと申し上げていたように、文化芸術というのは結構猥雑で混沌としたようなところから出てくるみたいなのところがあるじゃないですか。新しい文化芸術。だから、そういうところが拾えていないのかなという気がちょっとして、何か本当に我々が考えてもないような芸術が三重県の中から出てくる、そういうベースをサポートできると言うか、あるいは育てるとか、出てきた時にサポートするとかいうところが、ちょっと議論を重ねれば重ねるほど消えていったようで、ここまでに至っているのかなという気が今言われてみればします。本当に若い方々が新しい芸術に挑戦した時に、この中の枠組みの中で何か拾えるのかと言うと、ちょっと厳しいのかなという気がします。

( 委員 )

何か一言申し上げるとすると、「はじめに」がありますと、「おわりに」が普通はある。というのは、今、 さんがおっしゃったように、あくまで答申案という計画を、事務局をはじめ諸先生方が作られる。そして拠点となる施設がこれからどういう経営をしていくか。「経営」という言葉が適切かどうか分かりませんが、経営をしていく時にはやはり博物館も美術館も図書館も文化センターも、いかに県民に魅力のある企画をして、そして多くの方にご来館いただくか。ここに書かれているような方向、施策、重点方針、こういうものを実現をしていただくのは、実際にはそれぞれの館長さんなんですね。

ですから、「おわりに」というところに、やっぱりその担当をされる責任者である館長さんのこれからの経営というものを、実際にはこれが継続をしていくわけなんです、それでいろんな評価もされるということなので、そういうところを一つ最後、「おわりに」の部分に入れてほしい。本当に時間をかけて皆様のご検討をいただいて答申案ができて、そして方針が決まったと。じゃあ、それを実際に持って行った時にどういう運営、管理をしていただけるかということをおわりに」の部分に少し入れていただきたい。

文章は非常に難しいと思うんです。事務局は大変苦労されたと思うんですけど、最後にこの答申案の概要、1章、2章、3章、4章、5章、パッとこれを見ればよく分かるんですよ。それをやっぱり何かボリュームを付けて文章にして書こうと思うと、言われるように固くなってきますね。ですから、この1ページ、前々から文章をたくさん読むのは苦手なもので、こういう絵柄を最初に見せていただいて頭に置いて、そして文章に入るとだいたい姿が分かる。こういうことなので、一つよろしく願います。

(武村会長)

ありがとうございます。「博物館のあり方について」のほうに「おわりに」があるので、こっちも要りますかという話をさっきも事務局としていたんですが。

(委員)

さんがおっしゃった「おわりに」という部分は、僕はこの30ページの「県の役割」というところあたりに作っておいてあると思うんですよ。身近な拠点をもっと大事になさいとかが、そういう拠点間の連携をちゃんとなさいとかが、そしてその県自体は、そういうことをやっていく中で、拠点に係わる、いわゆる中間支援団体とか、あるいは企業や、いわゆるパートナーとなるような人たちとこうしていったらどうだろうか、ということも審議会として一応ご返事をするという形になっていると思うわけですよ。

いろいろ書かれていることは、今まで議論してくる中で言ってきたものですから、きちんと頭に入っていないところがまだあるんですが、答申としては、この県の役割として我々はこういうことを期待していると、この中にいろいろ書いているわけですよ。例えばさっきちょっとさんからも出ていた、もっと新しいものというか新分野とかいうものもどんどん創造していくようなこともぜひどこかへ頭を出すべきだということなんですが、そのところは、31ページの「多様なプラットフォームの展開」というふうに、この審議会としては提言をするわけです。その「多様なプラットフォーム」の中に、本当に新しい、伝統的なもの以外に新しいものも創出していくんだということも入っているわけです。そういう意味では、いわゆる諮問に対してはそれなりの答えが出たのかなと思うので、表現の仕方とか書く場所とか強調する程度とかはまだまだもう少し工夫する

必要があるかもしれませんが、これは非常によくまとまったのではないかと思いました。

(武村会長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。

「おわりに」は、いざ書くとなると大変難しいと思うんですけどね。

ただ確かに、先生が指摘された、例えばリラックスする場とか、そういう拠点としての機能、要求される機能以外に期待される機能というのが確かにあるだろうと。あるいは先生がご指摘になったように、何かおどろおどろしいものの中からキラリとしたものが出てくることを期待するとか、そういうあたりは、場合によっては「おわりに」に書いてもいいのかなという気もいたします。

今、委員からご指摘があったように、中身としてはそこできっちりとすべて書いてはあるんですね。それに伴って出てくる余情的で、かつ大事な部分を「終わりに」に入れるということは可能かも知れません。原案をまたちょっと考えていただいて、お返しさせていただきます。

何しろ答申の4日が期限なので、急ぎますが、だいたいご指摘いただいたことはそういうことでよろしいでしょうか。

時間もちょうど計ったように2時半になってきました。もしおおよそそういうことでよろしければ、こちらでマイナーなチェンジはありましたが、基本的にはお認めいただいたということで、こちらのほうは締めさせていただきます。よろしゅうございましょうか。

どうもありがとうございます。それでは10分ほど休憩しまして、「新博物館のあり方について」の審議に移らせていただきます。2時40分の再開ということで、よろしく申し上げます。

- 休 憩 -

(武村会長)

それでは、そろそろ時間でございますので、開会させていただきます。

次は「新博物館のあり方について」、資料2が基本になりますが、こちらは今井部会長からご説明をいただきます。だいたい3時半ぐらいを目処によろしくお願いいいたします。

(今井部会長)

- 「新博物館のあり方について」の答申案説明 -

(武村会長)

ありがとうございます。

それでは、今のご説明をもとにしてご審議をお願いいたします。

こちらのほうは章立てではありませんので、どこかで切らせていただきますが、20ページぐらいありまして、ちょうど半分が10ページ、「3 博物館の基本的な性格」の終わり、ここまでが



半分、それからその次の4から博物館の具体的な機能等に入って行きますので、とりあえず二つに分けて10ページまで、「はじめに」から3までのところで何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

( 委員 )

今回見せていただいて、表記について一番最初の表紙の裏のところに示していただいたのはとてもいいなと思いました。例えばこれを初めて読む時に、「三重県」と「三重」、そして「地域」の区別がなかなか分かりづらいと思うんですが、こう書いていただくことによって頭の中で整理して読んでいけるのかなと思いました。

それから、博物館のあり方の10ページまでなんですが、本当に私も新博物館のあり方部会に入れていただいて、勝手気ままにいろんなことを言わせていただいたのを真摯に受け止めていただいて、いろんなところに入れていただいているのをありがたいなと思いますし、よくこれだけまとめていただけたということで、感謝しております。

( 武村会長 )

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。この10ページまで。

僕も特に異論はないですが、最終的に思うのは、「文化」という言葉が、「三重の文化振興方針(仮称)」のほうとやや違うんですね。こっちの「文化」は狭い。「歴史・文化」として、歴史とも区別されている、自然とも区別されている、かなり狭い意味で「文化」と使っていらっしゃるので。「三重の文化振興方針(仮称)」のほうは、例えば自然との係わりも含めて、人間の営み全部を「文化」と言っていますので、ちょっと違うんですね。

じゃあ、しかし、どうすればいいかと言うと、いい案が浮かばないので、まあ具体的なものだからいいかな、しょうがないかなという雰囲気は今思っているところです。そういうふうに出っ込む人はいないと思いますけど。この中でははっきりしているから、それはそれでいいかと思えますけど。

( 委員 )

ちょっと一つだけ。私もこの新博物館のあり方部会に参加させていただいていて、本当にいろんな意見を言わせていただいたんですが、内容的にいろいろ盛り込んでいただいてありがたいなと思っております。

1点だけなんですが、その用語なんですが、例えば10ページに「みえの博物館ネットワーク(仮称)」というのがありますよね。これは、この名称で全部統一をされていて、それはそれで問題はないんですが、場合によってはこういうのが今後も一人歩きして行きますよね。この平仮名で「み

え」と書いて、しかも「の」というのが付いている、この「みえの博物館ネットワーク」というのは、最初この名称が生まれたのはいつでしたか。かなり固有名詞的になってきているので、ちょっと確認しておこうかなと。

( 委員 )

部会で議論している中でこの言葉になっていったということはありますよね。ネットワークをやらないといけないという議論はかなり出ていたんですが、固有名詞的になってしまったのは、文章を書くプロセスの中でだったかも知れませんね。

( 事務局 )

11月にまとめていただいた素案の段階で、もうすでにこの言葉を使っておりましたので、我々のほうも外で説明する時に使い勝手のいい言葉なのでそのまま使っていたんですが、このまま出していったいいものかもここで決めていただければと思います。

( 委員 )

むしろ、関係団体の方がこういう言葉で説明されるのがいいと思うかどうか。ここよりもむしろ外との関係なのかも知れませんがね。

( 委員 )

普通は、「三重博物館ネットワーク」とか言うんだったらまだしもですが、平仮名で「みえの」と。これはかなり固有名詞的になっているんです。

( 委員 )

最初の「本答申の表記について」での「三重」等についての説明もありますよね。

( 委員 )

名前は悪くないなと思っているので、これでいいかともは思いますが。

( 武村会長 )

いかがでしょうか。僕もいい名前だと思っているから抵抗がなかったんですが、言われてみると確かにそうでしょうね。仮称の場合は漢字の「三重」にしたほうがいいのかも分からない。そのあたり、ご意見いただけますか。このままでいいとか。特に抵抗なければ原案どおりこれで進めますが、よろしいですかね。「仮称」はあくまで付けておいて、変えたいときに変えられるようにしておくといいかも。

( 委員 )

ぜひこういうものを作って欲しいという気持ちでは表現しているので。表現がやや特化しているかなという気がしますが。

( 委員 )

雰囲気は分かりますね。

( 委員 )

感じは出てますよね。

( 武村会長 )

分かりました。それではとりあえず、あまりご異論がないからこのままにするとして、あと後半、11 ページから 20 ページまでいかがでしょうか。何かご意見がありましたら。

ご意見というまでもなくて、まったく下らないんですが、誤植で 16 ページの下から 8 行目、「ユニバーサルデザインに配慮にした」と書いてあるので直してください。ちょっと目に付いたので。

何でも結構です。いかがでしょうか。ご指摘、ご意見あれば。

この別紙にあります用語の注についても議論の中に入りますか。

( 事務局 )

これは説明を漏らしておりました。実は、部会等でもいろいろカタカナの専門用語を使っているんで、できるだけ注釈を入れるようにということがございました。それで「三重の文化振興方針(仮称)」でも同じように言葉を使っておりますので、これを脚注という形で本文には入れようと思ったんですが、ちょっと編集の段階で入れてしまうとレイアウトが崩れたりするといけないので、今は分けて一覧表にさせていただきます。

また、これ以外にも「ぜひこの言葉も、意味が分からないので入れたほうがいい」ということがあれば、入れていきたいと考えております。

( 武村会長 )

この別紙のほうで、何かありましたらどうぞ。

( 委員 )

この「おわりに」を読ませていただきましたが、この前はなかったですね。すごく分かりやすいし、ここを読んだら全部分かるような、これを目指したいなという気運がすごく入っていて、これはとってもいいなと思いながら読ませていただきました。

ごめんなさい、つまらないことでもいいですと言われたので。

( 武村会長 )

ありがとうございます。

他に何か。よろしいでしょうか。

この、僕が今、別紙のほうと言いましたのは、別紙のほうで多少抵抗があるので言っただけなんですけど、この「アイデンティティ」の説明、それから「レファレンス」の説明で、「アイデンテ

ィティ」の説明は、これは多分心理学の辞典か何かに書いてあったんだろうと思いますが、心理学的に言うアイデンティティと、ここで使うものはちょっと違うんじゃないかなと思っているので、もうちょっと調べたほうがいい。要するにどこかの学問的な言葉であるよりは、今現実にとこういう意味で使われているかということだけの注のほうがいいと思いますね。この心理学の定義でいくとおかしくなってくると思いますので、ちょっとこのへんは考えていただければ。

( 委員 )

この説明だと、注をつけずにかえて「アイデンティティ」だけのほうがいいかも知れない。

( 武村会長 )

それから「レファレンス」のほうは、これは間違えているんじゃないけど、レファレンスの一つの機能を言っているの、これはこれでいいんですが、例えば我々が何かの言葉について辞書を引くというのにも入ってますからね。必ずしもそんな職員のサービスだけじゃないので、もうちょっと注を付けたほうがいいかなと。簡単にしたほうがいいのかも知れません。

他に、何でも結構です。だいたい終わりに来ているところで何かご意見等があれば。

よろしいでしょうか。具体的に要望もはっきりしていますので。

( 委員 )

全体的なことになるんですが、先ほどの「三重の文化振興方針(仮称)」の答申案と、この「新博物館のあり方について」の答申案とでは、僕はやっぱり性格が随分違うと思うんですよね。「三重の文化振興方針(仮称)」のほうは、これは努力すればいいという話ですが、新博物館については、この答申が基本になって、やっぱり博物館ができてもらわなければいけないわけなんですよ。

その点について少し申し上げますと、今まで何回か整備の話が流れたんですね。けども、博物館は流れたんですが、文化会館だとか図書館だとか美術館だとか齋宮歴史博物館だとか生涯学習センターというのはできているんですよ。形はともかくとして。何で博物館が今まで流れて、こういう施設はできたんでしょうか。やっぱり財政問題があるとも考えられるんですが、私は、もう一つ側面があるんじゃないかと思うんです。

それは何かと言うと、やっぱりこのほか施設と博物館は、これは大変私的な見解かも知れませんが、この文化会館、図書館、美術館、齋宮歴史博物館、生涯学習センターというのは、非常に私ども一般なごく平凡な人間から言うと、すぐそばにあるんですね。それでやっぱりその必要性のコンセンサス(合意)というのは、賛成とか反対とかというようなそういう部門ではなくて、あるべきものだという感覚があるんですね。ところが、この博物館について見れば、どうもやっぱりそういう暗黙の了解の中の「あって然るべきだ」というコンセンサスが今まで足りなかったんじゃないかと。

だから今回もこの答申を出して、僕はお金の問題は先ほどの県民のいろんな意見の中にも、「借金してでも造ったほうがいい」という意見があるんですが、そういう部分においては、やっぱりちょっと考えるべきじゃないかと。それよりも、この答申を出して、それと、これはどういう「県民」という概念でしょうか、それは「議会」という概念でしょうか、そういう概念の中に、やっぱり意識、無意識の中でそういうものが必要であるという感覚がない限りはでき上がってこないと思うんですね。

だから、このへんの一般的な県民から、いろんな人からのコンセンサスの乖離と言うか、距離と言うか、距離感というものを埋めない限りは、博物館はできないんじゃないかと思うんですよ。だから、このへんをどうするか。やっぱりこういうふうにちゃんと意見を出していただいて、いろんな人の意見をお伺いしたのはいいけれど、これはやっぱりオタクの意見であって一般的な意見ではないというような見方もできるんですね。

だから、このへんについて、やっぱりお金の問題、お金の問題と言うんですが、そういうコンセンサスができれば、お金の問題とは違った問題ができてくるというように感じるんですが、やっぱりこの答申を出すにあたって、博物館ができて上がってくれないことには、出した意味がないと考えます。ちょっとこのへんについて、博物館が、そういう私のような乖離した考え方を持っているのは特定の者なのかどうかということもあります。私は、一般的な考えから言って、何でそれじゃあ、図書館だとか他の文化会館とかに 50 億も使うのにはそんなに反対もなくでき上がってしまうのに、博物館についてはどうしてでき上がらないのか、このへんについて、私はやっぱりもうちょっと一般的なコンセンサスというものを研究してみたほうがいいんじゃないかなという気がするんですが、いかがなものございましょうか。

(武村会長)

ありがとうございます。大変重要な問題なんですけど、ちょっとまだ時間がございまして、今のような根本的なことでもご意見をいただければ、これを知事に差し出す時に口頭でも言えるかと思っておりますので、何かいかがでしょうか。

僕なんか、地域で博物館を今、さんが指摘したように、講ぜられるべきだと思うかどうかというのはその地域の文化度を示すものだと思っているんですけどね、なかなかさんが言われる、そういうムードを作るにはどうするかとなると、これはまた難しいので。

(委員)

水を差すようで申し訳ない。

(委員)

さんの今の意見に関連いたしまして、やっぱり具体的に見ますと、県の総合文化センター

ができた時に、巷できくところによると地代を除いて350億とかいう、今からではとても考えられないような資金を投じてできた。その時になぜ博物館がそこに入らなかったのかなというのが一つ疑問なんです。その後、美術館が増築をした時に、柳原先生の作品の寄贈があつてできたと。しかし、博物館は置き去りにされていて、まさにもう倒壊寸前と言っては失礼ですが、本当に過去のそういう経緯を見ても全然目も向けられていず、門外、もうお城の外と言うか、県じゃない、他県のような感じで見られていたのが博物館です。

このたび博物館等が、この県の文化振興方針の中で新しく、やっぱり生活・文化部という新しい組織に変わり、知事部局へ行き、そして文化振興室というのが新たに、この資料1-2にあるように、すべてここで管轄をされるという、県としても新しい組織とか制度とかが変わる時期に、まさに今ここで文化施設の基本的なことが議論をされて、そこに博物館の必要性が提案されている。答申をされている内容や、タイミング的に見ても、まさにその博物館が必要だという機だと。そしてこういう形で博物館が将来の三重県の財産として必要という時期なので、ぜひともそういう点全部を含めて答申の一角に入れていただきたい、このように思います。

(武村会長)

答申の一角ということですが...

(委員)

答申の中にね。組織も変わり、文化振興室の中ですべてのこういう今の中核の施設の総括がされる。新たに教育委員会からこちら、知事部局へと。

(委員)

もうちょっと言わせてください。この答申については、私は別段異論を唱えることは何もありません。ただ、今申し上げましたように、やっぱり博物館は造っていただきたい。そしてやっぱりそのコンセンサスの乖離を埋めるべき方策も必要だと思いますし、それと同時に、やっぱり造るにあたって今まで、今、さんがおっしゃったように、何度もできなかったのはなぜだろうという話になれば、やっぱりこの性格付けとか、必要だというそのイメージみたいな部分についても、よほどやっぱりそういう訴えられるものを持たないと実現しないんじゃないかと思います。

それともう一つは、イメージと、それからやって行くべき、この間のこの新博物館のあり方部会でもおっしゃっていましたような熱意ですね、そういったものもできれば何らかの形で中に感じさせるようなものを入れていただければなど、少しでも思うんですが、よろしく願いいたします。

(武村会長)

具体的にはどこへどう入れるということはあるですか。

( 委員 )

それはちょっと考えてなくて。表現的に私は文才がございませんので、申し訳ありません。

( 武村会長 )

本文も難しいかも知れませんが、これはあとで報告されますが、今めくってみますと、資料4の2ページ目に、知事さんに答申する場合の文書の案がありますよね。2枚綴じのものです。これが案だと思うんですね。これにきっちり書くというのが第1案です。第2案は、答申する時に口頭で強くお願いする。そのあたりでどうかなと思っているんですけども。事務局は、こういう文章の中に入れるのは困りますか。

( 事務局 )

いえ、別に構いません。

( 武村会長 )

答申にあたって、こういうことを読むんでしょうが、書いたほうが残りますよね。今、委員さんや さんが言われたことをどう文書化するかというのはちょっと難しいけれども。

他に何かあれば。

( 委員 )

前回の部会でも今言っていたのと、もう少し粗かったですが、熱意をいかに伝えるかということについて、その時にこの答申書の中に入れるという話もあったんですが、これは外に出て一人歩きはしないので、この本文中に少しでも入れたほうが良いということで、「おわりに」を付けて、必ずしも十分ではないにしても一応熱意の一端を書くようにしていただいた。そういうことで、前よりは淡々とした部分だけではない、まだ 100%では勿論ないでしょうが、少しはそういう雰囲気が出てきたと一応理解しております。

重ねて答申書の中に一言触れて、勿論口頭でも言っていたくんでしょうけれども、そういうことで、なかなか「2 めざす博物館の姿」にもちゃんとなぜ今、金をかけてやるのかという意味についても相当整理されていて、少し情熱が足りないという気もしますが、書くことは書いていただいているので、これに付け加えるならば、やっぱり答申のところに一言書いて、武村先生に知事への答申の時に口頭でも伝えていただくということをお願いしたいとは思いますが。

( 武村会長 )

さっきの さんのご指摘のように、中身を熟読するとは限らないですからね。

委員さん。

( 委員 )

まったく基本的には同じなんですけど、何かやっぱり今話題にしているように、「はじめに」のと

ころと、先ほどの知事に出す時に何か入れたほうがいいんじゃないかと思うんですが、やっぱりそれぞれの県が博物館を持つということ。他県も持っているわけですよ。それはものすごく意味が込められていると思うんですね。ですからこの三重県が、言わばまともな博物館がないということがどんなに大きな問題なのかということ、例えば何か入れるとしたら、他県では博物館をこんな形に位置付けてやってきて、それを見ればやっぱり博物館というのは県の文化のアイデンティティを示したり、文化の発信の拠点になると。そういう決定的な役割を果たしているんだと。何らかの短い言葉で、県に博物館がなかったら非常に恥ずかしいことだよというようなことが入れられないかなと思うんですけどね。

(武村会長)

分かりました。今のご発言、皆様大変重要なので、事務局と相談して、また副会長にも相談して、短いながらインパクトのある文章を考えますので。

( 委員)

「今なぜ新博物館か」という項目がありますよね。ここには十分うたっていたと思っています。それで、もし熱意とか、足りない部分、三重県に博物館がなかったら、私も実は恥ずかしいなと思っているので、この際できなかつたらどうしようかというような思いを持って、この博物館に関わらせていただいているんですが、そういう思いをもう少し平たくされてみるのもいいのかも知れません。これは随分大事なところだとは思いますが。

( 委員)

それは入れるならば1行目ですよ。1行目に「三重県は、文化県として、充実した博物館を持たないことは恥である」と。三重県の博物館の歴史を書けば、恥であると。そうすると、「なんだ、こんなこと書きやがったのか!」となって、知事は間違いなく腹を立てられすぐ博物館を造るのでは……。小説でもやっぱり1行目が大事なんです。それでさっきから「はじめに」をもっと充実させるというのはそういうことです。

(武村会長)

今の表現も大変おもしろいので、「はじめに」に入れるか、答申に入れるか、ちょっとお任せいただいて、考えることにしたいと思います。

( 委員)

すみません、子どもみたいな発想からの意見になるかと思うんですが、二つあります。

まず1点目は、子どもの側から言うと、自然のものとか動植物とか、例えば極端に言うと恐竜だとかがすごく好きです。鳥羽ですか、安楽島のほうで出たああいうものに子どもたちはすごく目を輝かせて、「先生、こんなのがあったよ」と言ってきたことがあったんです。ところが、そう



いうものがじゃあどこに收藏されるのかとか、どこに行ったらその実物に近いものがあるのかと言った時に、やっぱりそれは博物館にあるからと言うので、子どもたちは博物館、いわゆるそこに收藏されるような中身がものすごく好きです。ところが、それがなくて、今、理科離れとか何とかいっぱい言われていますが、やはりそういうチャンスも少なかったのかなと一つ思います。

それから、私が前に教頭の時に仕えた校長先生がやっぱり自然系の方で、随分県民のご意見を見てきた中に、「あ、この中のどれかがあの先生じゃないだろうか」と思って見せてもらったような文面があったんですが、本当に消え行く自然だとか、今、地球がどうか、環境のことがすごく言われているんですが、そういうことというのは、どちらかと言うと今まで作られてきたものがある意味で文系と言うか、そういう感じが強いので、今、声を大にして自然系の先生方とか教養を持ってみえる方が県民意見のところでもたくさん言っていたのかなと思うので、ぜひやっぱり三重県に博物館が欲しいと、私は願っております。

(武村会長)

そこで次は、例えばこのメンバーだけじゃなくて、県民みんなの熱意だと強調して、今回出していただきますので、よろしく願いいたします。

ちょうど時間となってきましたが、原案をご承認いただいてよろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

それでは、博物館のほうも原案をお認めいただいたということでございます。

では事項書4、「今後の予定について」ということで、事務局からよろしく願います。

(事務局)

- 「今後の予定について」説明 -

(武村会長)

資料4の裏側と資料5につきまして、何かご質問なりあればどうぞ。

この答申文の中にさっき言ったようなことを加えるという、おおよそそういう方向には来ていますので、具体的には先ほどのご意見を入れた上で、あまり長くならないようにします。そっこのほうが難しいですね。

( 委員 )

この答申文の趣旨は、要するに審議会としては別添のとおりお答えしますとあり、別添が本文になっておるわけでございます。「この答申をもとに県として『三重の文化振興方針』を策定され、県民、NPO等団体、企業、市町と協働して総合的に取り組まれることを期待します」と、非常にあっさりと言い切っているわけですね。で、わざわざ新博物館だけ基本構想をやると。これはこの頭に「早期に」とか「引き続き」とか、何かそういう形容詞を入れて、「基本構想を策定され」

とし、さっきのように「整備に向けた取り組みを進められるよう、強く求めます」とかいう形になればよくて、かえってここであまりグダグダ書かないほうがいいんじゃないかと私は思いますけど。

(武村会長)

こういうご意見もございますので、もうちょっとその点、いかがでしょうか。

( 委員)

そのこととはちょっと別なんですけど、2段落目の「総合的に取り組まれることを」とありますが、何に総合的に取り組むのか、ちょっとこの文ではよく分からない。こういう文書はこれでもよろしいのでしょうか。ちょっと常識的に読むと、何に取り組むのかよく分からない気がするんですが。

(事務局)

勿論、文化振興方針に基づいて、文化振興に取り組んで欲しいということでございますので、目的語は「文化振興」に総合的に取り組むと、修正をさせていただきたいと思いますが。

(武村会長)

今のでもよろしいですか。一番最後の2行について、これをもうちょっと「早急に」とかいう、「早急に」は後ろには付いているんですが、もうちょっと強調すればいいのではないかということとは、あとは口頭で強く言えばいいということでしょうかね。そういうご意見もございますが、いかがでしょうか。どういうふうがよろしいですか。とにかく意志が伝わればいいという気がしますので。

( 委員)

新博物館は、「建設」じゃなくて「整備」ですか。博物館「整備」に向けた取り組みだと、今のところ(現博物館)を整備するという意味にとられないか。「建設」とかにしたほうがいいのでは。

(武村会長)

それはそうかも知れませんね。それと、それに関わるんですが、資料5では左から流れて行って、「答申」が真ん中であって、それまではこの答申案の名前がそうだからそうなんだろうけど、「新博物館」だったのが、急に「新県立博物館」に変わっているんです。そうすると、県立博物館と言うと今もあるからね。整備という認識になってしまうと思うんですけどね。その資料5のほうも「県立」を入れたほうがいいんですか。

( 委員)

「整備」の中には職員の確保とかいろんなものが入っているから整備なんではないでしょうか。

(武村会長)

それはそうでしょうね。

(事務局)

勿論、現在も博物館があるわけで、その延長線上でまた新たな場所で新たな博物館をとということで、先ほど言われましたように建物だけではなくて、博物館活動そのものもここへ乗せていきたいという意味も込めて、広く「整備」というふうに考えているんですが、いかがでしょうか。ただ、「新」と付けておりますので、今までの県立博物館とは違うものだということで、「新県立博物館」という名称を付けさせていただきました。

(武村会長)

いかがですか。確かにそういうこともあるでしょうし、一般的に「整備」と言うと、今あるものをチョコチョコという意識もあるのでそういう質問になったかと思いますが、そのあたりはいかがですか。練ったほうがいいでしょうか。

だから、根本的な問題としては、さっき　さんが言われたように、あまりゴチャゴチャ書かないほうがいいかという、そのへんちょっとご意見をいただきましたが、口頭でもいいやということでしょうか。いかがでしょうか。このへんだけご意見を承れば、今日はだいたい行けるかと思えます。

(　　委員)

私は、ここで「新博物館」と書いてあるので、十分に今言われた建築ということは読めるんだろうと思います。こちら側の「新博物館のあり方について」に部会のほうできっちりと書き込んでいただいているので、これはセットもので、こちらは建築の話が出ているわけですから、答申文が「整備」と書いてあるからといって、こちらを無視して「整備」だけ一人歩きしていくことはあり得ないと思います。

もし、さっきもっと情熱的と言うか、熱意を込めてと言うんだったら、やっぱりこっちの「新博物館のあり方について」のほうを少しいじるほうがいいんじゃないでしょうか。そんな気がしますけど。これはもう本当に形として「作りましたよ、どうぞお読みください」ということなんだろうと思います。

(武村会長)

それでは、今のご意見をまとめますと、この添付する答申文そのものは簡素なほうがいいということですので、多少ちょっと練るとしても、あまり長く変えないということで行きます。それで、それを口頭で強く言うか、本文に込めるのは、大変でしょうか。これから考えるのは、

( 委員 )

これ、今から基本構想だと言っているじゃないですか。一步後退するようなふうにとられないか。

( 事務局 )

基本構想はあくまで今年度中にとという意味を込めているんですけども。

( 委員 )

だから、「引き続き」とかの言葉を入れるべきです。何と云うかこれから先の話、もうすぐ年度末ですから、20年度はもうきているようなものなので、そこでまだ基本構想かと、こういう印象を与えるんじゃないかと。

( 事務局 )

私どもも早くこれを県の考えにして、表に出せという意味で「基本構想」という言葉を使ったんですが、逆に言えばもう「基本計画」に移行して、早く整備しようということのほうがいいでしょうか。

( 委員 )

そういう意味なんだということ、原案にもたせればいいんですが、ここではもういっぺん「基本構想」というところへ戻って行ってやりましょうとか、審議会はこう答申しましたよと、県のほうが速やかに基本構想を策定されてというと、もう20年度以降の話だなと思われてしまう。これは違うので、そうじゃありませんよということを言外に込めるか、言葉で書くか、「速やかに基本計画を立て、着手されるよう、強く要請する」とか何とか言ってしまおうか。

( 委員 )

ちょっといいですか、私も本文の19ページの一番上から4行目で、具体的な計画を立てる必要がありますということは、書いてあることは書いてあるけれども、ここでは「基本計画」を立てたほうがいいんじゃないかという、ちょっと私はそんな感じがしているんですが。少し曖昧にしておいたほうがいいのかどうか。基本計画を作るのに次のステップ、要するに進めるということで、「計画」と言うと全部計画ですので、次のステップとしては「基本計画」という言葉にできれば、ちょっと私には何か具体的なイメージがするんですけど。

( 武村会長 )

資料5の右半分、これは答申を受けて議会で議論をして、それから県の基本構想をどうするかと云って、それで基本計画に着手と、こういうことですね。それが念頭にあったんですが、リミッツまでのんびりやるなということ。今のご指摘を受けて、ちょっと案を作ってみてください。

(事務局)

「基本計画」と明記させていただきます。

(武村会長)

それでは今、お二人とものご指摘があるような形で明確な形で文言にしたいと思いますが、先ほどの件は本文の中に入れるとかなり大変かも知れません。もしうまく行かなければ口頭でいいということでご勘弁いただきましょうか。

( 委員)

判断は会長さんと副会長さんにお任せするということで、よろしくお願いします。

(武村会長)

では、そういうことでよろしく願いいたします。

議事としてはその4まで終わったということですが、あと事務局から連絡事項等、何かございますか。

(事務局)

皆様方には長時間にわたりましてご審議をいただき、ありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえまして、2月4日の答申に向けて作業を進めていきたいと、かように考えております。

最後に、生活部長の安田からご挨拶を申し上げます。

(生活部長)

博物館をつくるということに関して、今年度急に7月23日から審議会が5回、拠点部会が4回、博物館部会が5回、県民の意見交換会が2回ということで、延べ16回お世話になりました。

それから、我々もいろいろ素案を作ったわけなんです、それぞれなかなか作業がタイトで、十分事前にお示しすることができなかつたわけでございますが、それをお送りしていろいろ検討していただきまして、多大なお時間をかけて、今日ようやくこうしてまとめていただきました。本当はこの7月にどうなるのかなということを私は思っておったんですが、こういうふうにまとめていただきまして、本当にありがとうございました。

現在、来年度の予算を策定しておりますが、拠点の話ではないですが、今から具体的なソフトをどういうふうにしていくかというようなことを、来年度、「生活・文化部」ということで、生涯学習を含めた分野が私どもの部に来ますので、そういう議論と、それから県民参画を合わせて事業として、具体的に策定、広報、啓発、周知について、先ほど議論のありました、財政事情が厳しい中でやはり博物館が必要なんだということを県民にきちんと理解してもらって、それを求めていくような努力を事業としても取り組ませていただきます。

そういうことを含めて、今後議会であれやこれや、だいたひ議論が出ると思いますが、やっぱりきちんとご説明をして、早急に基本構想だけはまとめて、次の基本計画づくりに入って行きたいと思います。県民参画等も、きちんと今回いろんな形でヒントをいただいたと言いますか、博物館活動を広げて行くような分野とか対象とか、県民懇談会では随分熱心な自然系の人たちのご支援もありましたので、そういう人たちと今後議論していくと、基本計画段階ではもっと具体的にお示しできるようなことがまとまってくると思います。なるべく早くそういうものをまとめて、最終的には事業費とか施設規模とか施設概要をきちんとまとめて、来年度最終の判断を議会と県民に求めて行きたいと思いますので、今後もこの審議会にいろいろお願いをすることになると思いますが、来年度も一つよろしく願ひいたします。どうもありがとうございました。

(武村会長)

どうもありがとうございました。

(終)